

名古屋市文化振興事業団 主催事業 1月

チケット好評発売中です。 1月にお届けするバラエティーに富んだ公演をお楽しみ下さい。

山田姉妹 日本の歌コンサート～新年を彩る、日本の愛唱歌～

日時 1月14日(月・祝) 13:30
会場 瑞穂文化小劇場 TEL:052-852-7001
 <全指定席>
料金 新規入会 **3,200円** ※友の会一年間の会員権付き
 一般 **3,500円** (友の会会員、大学生以下2,300円)
PCコード 131-534

日本の童謡・唱歌など古き良き四季折々の名曲を、テレビやコンサートで活躍中のソプラノデュオ・山田姉妹の美しいハーモニーでお贈りします。

朗読劇「風の又三郎と宮沢賢治の音楽世界」

日時 1月19日(土) 11:00、16:00
会場 東文化小劇場 TEL:052-719-0430
 <時間指定・自由席>
料金 **1,000円** (友の会会員800円)
PCコード 490-206

オーディションで選ばれた30名が、プロのスタッフとともに創り上げる朗読劇。宮沢賢治の代表作「風の又三郎」を、美しい歌声にのせて朗読上演します。

藤田麻衣子ピアノ弾き語りコンサート

日時 1月20日(日) 16:30
会場 青少年文化センター・アートピアホール TEL:052-265-2088
 <全指定席>
料金 新規入会 **3,500円** (5席のみ) ※友の会一年間の会員権付き
 一般S席 **3,800円**、一般A席 **3,000円** (友の会会員S席2,800円、友の会会員A席2,400円)
PCコード 125-810

名古屋市長区出身のシンガーソングライター・藤田麻衣子が名古屋に凱旋。自らがピアノで弾き語るプレミアムなステージをご堪能ください。

春風亭小朝 新春独演会

日時 1月24日(木) [昼の部] 14:00 [夜の部] 18:45
会場 青少年文化センター・アートピアホール TEL:052-265-2088
 <全指定席>
料金 **1,800円** (事業団友の会会員限定販売) ※未入会の方は入会手続きが必要です。 ※お一人につき4枚まで。 ※未就学児入場不可。
 その日の客席の雰囲気によって演目を間際に決めるという、ライブ感を重視した企画! 事業団友の会会員限定販売ですので、未入会の方はこの機会にご入会ください(年会費3,000円)。大人気の公演チケットをお値打ちにお買い求めいただけるチャンスです。

チケット取扱い

- 名古屋市文化振興事業団チケットガイド TEL:052-249-9387(平日9:00~17:00/郵送可) そのほか名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口(土日祝日も営業)でもお求めいただけます。
- チケットぴあ TEL:0570-02-9999 ※セブン-イレブンでも直接お求めいただけます。 ※1月24日(木)「春風亭小朝 新春独演会」の取扱いはありません。

主催 **名古屋市文化振興事業団** 公演に関するお問い合わせは名古屋市文化振興事業団チケットガイドまで

環境にやさしい企業を目指します

わたしたちの会社ではISO14001を取得、印刷にかかわる制作から配送まで、トータルで環境にやさしいシステムを構築、環境負荷低減印刷を目指します。

中日高速オフセット印刷株式会社
 〒462-0847 名古屋市中区金城四丁目3番19号
 TEL (052) 914-1711 FAX (052) 914-7913
 http://www.c-offset.co.jp

舞台VTR映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。

ビデオソフトの企画制作

株式会社 **イーワン・ビデオ・システム**
 TEL (052) 896-2256 FAX (052) 896-4100

「ナゴヤ劇場ジャーナル」ではサポート会員を募集しています。

ナゴヤ劇場ジャーナル

◎年間6,480円で毎月お手元にお届けいたします。
 ◎毎月24,000部発行 ※東海地方の演劇・舞踊・音楽公演・ホール、DM等にて配布

MP MANAGEMENT PRO 株式会社マネージメント・プロ
 〒461-0004 愛知県名古屋市中区葵2-11-22 アバンテージュ葵305
 TEL (052) 508-5095 FAX (052) 508-5097
 URL http://www.mane-pro.com

業務内容 ①舞台の企画・制作マネージメント ②イベントの企画制作 ③芸術団体のコンサルティング ④舞台・イベントの運営

WE MAKE YOU MOVE 感動をあなたへ

この領域を超えて最高のパフォーマンスを。

20Hz ← → **20kHz**

A&V PRO AUDIO & VISUAL & NETWORK
 舞台音響・映像設備
 設計・施工・保守・特注品製作・業務用機器販売

お客様に寄り添った先進のAVシステムを提案する
株式会社エーアンドブイ
 〒464-0846 愛知県名古屋市中区千種区木町二丁目98
 TEL:052-761-5400 FAX:052-761-0909

なごや文化情報

2019
1・2
 January / February

No.384
 NAGOYA
 Cultural
 Information

随想/衣斐 愛 (能楽師 シテ方宝生流)
 視点/活気ある名古屋の児童青少年演劇
 この人と...ズームアップ/渡部純子 (声楽家)
 いとしのサブカル/Cyo-co (アラフォーアイドル Shine4ever リーダー)



平成30年12月25日発行 隔月1回25日発行 通巻384号 編集発行/公益財団法人 名古屋市文化振興事業団 〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号 TEL:(052)249-9385 FAX:(052)249-9386 HP http://www.bunka758.or.jp/

Contents

名古屋市民文芸祭 小・中学生の部 受賞作品 …… 2

随想 無限
衣斐 愛 (能楽師 シテ方宝生流) …… 3

視点
活気ある名古屋の児童青少年演劇 …… 4

この人と…ズームアップ
渡部 純子 (声楽家) …… 6

ピックアップ
追悼 稲垣喜代志さん …… 8

いとしのサブカル
Cyo-co (アラフォーアイドル Shine 4 ever リーダー) …… 9

ミュージカル ボーイフレンド …… 10

おしらせ …… 12

「なごや文化情報」編集委員

- 上野 茂 (ナゴヤ劇場ジャーナル編集長)
- 森本悟郎 (表現研究・批評)
- 山本直子 (編集・出版 有限会社ゆいぽと代表)
- 吉田明子 (人形劇団むすび座制作部長)
- 米田真理 (朝日大学経営学部教授)
- 渡邊 康 (椋山女学園大学教育学部准教授)

表紙

作品

山の民の末裔
～木地師、大蔵真さんの工房にて～
(2012年/50×70cm/切り絵)

木地師と言うのは、轆轤でお椀やお盆を作る職人さんです。轆轤に木材を取り付け、回転させて刃を押し当てると、木が丸く削れてお椀が出来上がります。

大蔵さんの家は平安時代から滋賀県の山奥に一族で住んでいて、木地師を営んでいたそうです。戦後、名古屋の現在の場所に移りました。

使っている轆轤はその当時から使い続けているので、70年以上現役です。ここまで使い込むと命が宿るみたいで、大蔵さんと一緒に一生懸命働いているように見えました。何とも健気ですね。



俊寛 (しゅんかん)

- 1971年 愛知県生まれ
- 1996年 イタリア・フィレンツェに渡り、切り絵の制作活動に入る。
- 2005年 フィレンツェ、コルシーニ公爵夫人主催、職人展でグランプリ受賞
- 2011年 豊田市、おいでん祭りのポスター制作

「2017年 名古屋市民文芸祭」
(第六八回名古屋短詩型文学祭) 小・中学生の部
詩の部 受賞作品より
※受賞時の学校・学年で掲載しています。

◆市会議長賞◆

名古屋市長 山内 真愛

あの夏の日

美緒ちゃん、覚えてる？
あの暑い夏を
初めて出会ったあの暑い
夏を

田舎暮らしの美緒ちゃん
は、
いとこの私にスイカをく
れた
甘くて真っ赤な太陽は
口の中にスーッと消えた
それを私が食べきったと
きの
美緒ちゃん、覚えてる？
あの暑い夏を
初めて出会ったあの暑い
夏を

私は初めて思いやりを知
った
私ははじめて心から嬉し
かった

美緒ちゃん、覚えてる？
あの暑い夏を
初めて出会ったあの暑い
夏を

勉強嫌いの美緒ちゃんは
テストの点が悪かった
それでも百点とりたいと
算数を必死に勉強した
私と一緒に勉強した
私から算数が得意にな
った

私は初めて努力をした
私は初めて頑張った

美緒ちゃん、覚えてる？
あの爽やかな日を
最後に遊んだあの爽やか
な日を
いつも元気な美緒ちゃん
と

野原で虫をとっていた
勉強で忙しくなったので
あまり美緒ちゃんと遊べ
なくなりました
それでも美緒ちゃんは元
気よく
「絶対にまた遊ぼう」と
言った

私は初めて友情を知った
私は初めて親友をもった
最後に遊んだあの日から
美緒ちゃんとは一度も会
えなかった
せめてもう一度だけ会
いたかった
もう一度だけ

美緒ちゃんの思い出は永
久に続く
美緒ちゃんの記憶は無限
に続く
私の心の中で

美緒ちゃん覚えてて
あの夏の日を

随想



「無限」

いび あい
衣斐 愛 (能楽師 シテ方宝生流)

愛知県出身。金城学院中学・高等学校、東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。5歳にて初舞台。同門会「つぼみ会」主宰。名古屋宝生会同人。2015年、個人演能会「逢の会」を発足。子どもから大人まで幅広い世代に能を楽しんでもらう催しを考案、企画。2018年、名古屋市文化振興事業団 第34回芸術創造賞受賞。

この程、名古屋市内の歴史的建造物や商店街のフリースペース、劇場などを会場に開催されたイベントである「やっとかめ文化祭」の一環として上演したろうそく能にて、初めて小書のついた曲を演じました。能の小書とはいわゆる特別演出のことです。能の題名を縦に書き、左下に題名より小さい字で演出名を書くのが正式な形です。曲によって付く小書は決まっています、小書のない曲も多々あります。宝生流では概ね小書きがつくことで曲の位が上がります。

今回上演させていただいた曲は「船弁慶 後ノ出留ノ伝」です。小書がついても、謡は全く変わりません。前シテ・静御前が「中之舞」という決まりの舞を舞いますが、小書きがつくと舞の途中で義経を見据えて涙を流す(シヤリをする)型が入ります。後シテ・平知盛の亡霊が登場するシーンは、常の船弁慶では早笛というアップテンポな囃子「早笛」に乗って橋掛かりから舞台へ登場し「そもそも是は。桓武天皇九代の後胤。平知盛幽霊なり」と名乗る謡を謡います。小書がつくと、この謡を半幕の状態で幕の中から謡います。謡い終えてから幕をいったん下ろし、「早笛」になります。姿を現す前に、声だけ舞台上に登場させることになります。曲のラストシーンも、通常は能の最後に踏む「留拍子」を踏みません。地謡が謡っているうちに幕の中へ走り込む形に変わります。そ

して、いつもは囃子と地謡が同時に鳴りやみですが、地謡が先に謡い終え、囃子が余韻の如く残って曲が終わります。その他、謡に緩急がついたり、囃子の手が変わったり、常と異なるところはまだいくつかあります。

謡は変わらないのに、こうした演出によって曲の雰囲気が一風も二風も変わります。演じてみて、能の曲に秘められた無限の広がりを感じました。頼朝、義経の不仲という歴史的背景、後々を見据えた弁慶の考え、義経のつらい決断、静御前の涙、船頭の気合、怨霊を追い払う弁慶の祈り、知盛の怨念。船弁慶の物語に出てくる諸々を謡で、台詞で、型で表現する。そこまでは準備万端であればできることですが、本番の舞台上でそれらに伴うにふさわしい「気」が流れるかどうか。見えないものだけに予測不可能で、終えてみて、果たして成功だったのか失敗だったのかすら分からないところに舞台芸術の怖さ、同時に無限の可能性を感じます。

学ぶべきこと、追求めていきたいことも無限にあり、先は長そうですね。



能「船弁慶」撮影：工房円

活気ある名古屋の児童青少年演劇

子どもの頃に幼稚園・保育園や小学校でお芝居や人形劇を観たり、お母さん・お父さんと一緒にお出かけして舞台芸術に触れた記憶のある方もいらっしゃると思います。

あまり知られていませんが、名古屋は児童青少年演劇（子ども向けのお芝居など）の創造活動が非常に活発で質的にも高く、全国的に注目されています。その一端をご紹介します。（まとめ：吉田明子）

地に密着した公演活動

「名古屋は元気が良い」。児童青少年演劇の世界で以前からよく言われている言葉です。

日本児童・青少年演劇劇団協同組合（児演協）には、全国で64団体が加盟しており、その中で名古屋市に拠点を置いて活動している団体（劇団など）は、以下の6団体です。演劇人冒険舎、クラウンファミリー・プレジャーB、劇団うりんこ、総合劇集団俳優館、人形劇団むすび座、ラストラーダカンパニー（この団体はクラウンファミリー・プレジャーBに所属しているクラウンのChangとLONTOにより、2018年1月に結成されたばかりの団体です）。

2016年に児演協が実施した「2015年度 児童青少年演劇 都道府県別観客数調査」（回答率64.5%）〈別表参照〉によりますと、幼稚園・保育園・小学校公演の観客数は東京都約152,700名、愛知県231,000名、大阪府86,500名。団体の自主公演やその他の公演を含めた観客数の総計は東京都350,500名、愛知県300,000名、大阪府153,000名。それぞれの人口が東京都約1,380万、愛知県754万、大阪府882万ですので、愛知県の観客数の人口比率はかなり高いです。

これは、人形劇団むすび座（1967年創立、劇団員39名）

と劇団うりんこ（1973年創立、劇団員36名）が、創立当初から地域の幼稚園・小学校の教諭や保育園の保育士、お母さんたちと結びつき、幼・保・小学校公演という鑑賞の場を切り開いてきた地道な活動の結果であるといえます。そして公立文化施設の主催事業、教育委員会、おやこ劇場・子ども劇場など幅広い公演活動の成果でもあり、両劇団とも年間観客数は16万人を超えています。また、劇団うりんこは1986年にうりんこ劇場という自前の劇場を建て、新作の発表の場としても地域の劇場としても、多彩な催しを行っています。



舞台に見入る子どもたち

児演協代表理事の大野幸則さんは「名古屋の団体は地に密着し、とても活発で充実した公演活動を行っています。またその活動は日本全国に広がり、全国的にも非常に高い評価を受けています」と話してくださいました。

児演協加盟団体以外にも、さんさん劇場、人形劇団パン、はぐはぐ☆カンパニー、ひと組、ほんわかシアター、ゆめみトランクなどの劇団・人形劇団が名古屋を拠点に精力的に活動し、子ども達に生の舞台芸術を届けています。十分ではないかもしれませんが、それでも他の地域に比べれば東海地方の子どもたちはずいぶん恵まれた環境にあるといえるのではないのでしょうか。

公演数だけでなく、作品も高評価

一般財団法人児童健全育成推進財団が主催している「児童福祉文化賞」という賞があります。この賞は児童福祉文化の普及向上を図るために1959年に設けられ、出版物、舞台芸術、映像・メディア、特別部門の4部門

で構成されています。毎年、児童福祉に関する優れた文化財が「児童福祉文化賞推薦作品」として数点ずつ選定されるのですが、今年度の舞台芸術部門の推薦作品は次の5作品でした。「プレジャーBのコメディ・クラウン・サーカス」（クラウンファミリー・プレジャーB）、「夜明けの落語」（劇団うりんこ）、「アラビアンナイト～魔法のランプと明日のヒカリ～」(人形劇団むすび座)、「おじさんとおおきな木」（劇団なんじゃもんじゃ：岐阜県中津川市）、「ピノッキオ」（劇場創造ネットワーク：東京都杉並区）。5作品のうち4作品を東海地方の団体が占めるという結果でした。

そしてその中で最も優れたとされる作品に贈られる「平成30年度児童福祉文化賞」を「プレジャーBのコメディ・クラウン・サーカス」が受賞しました。「高い技術力に加え、観客の子どもらとのコミュニケーションを大事にしている点」などが評価されての受賞となりました。



平成30年度児童福祉文化賞「プレジャーBのコメディ・クラウン・サーカス」クラウンファミリー・プレジャーB

同作品の制作・出演のChangさんは、受賞の喜びを以下のように語ってくださいました。「自分たちにとっては物凄く大きな意味のある賞でした。未だピエロと呼ばれ、その真価が認知されておらず、芸術と認められなかった日本のサーカスの長い歴史において、この作品の児童福祉文化賞舞台芸術部門の受賞は大きな驚きです。周囲の関係者からの賛辞で実感が湧いてきました。

道化師は誰もが共感できる日常なことで、小さな悲劇も笑い飛ばす、生きる力に溢れています。失敗やコンプレックス、他者との違いをポジティブに受け入れるこ



児童福祉文化賞授賞式
クラウンファミリー・プレジャーB、劇団うりんこ、人形劇団むすび座、審査員の面々

とで、笑いに変えてみんなを笑顔にする力があることを知ってもらえたら嬉しいです。集団生活の中で個性や表現を抑制され、SNSやメールで自己を活字でのみ表現し、テレビやインターネットを通して消化しきれないほどの情報が溢れる現代において、素直に笑い、泣くことができた幼少時代を追体験することができます。表情も、気持ちも使わなければどんどん硬直してしまいます。夢のような存在である道化師から、人間らしさとは何かを感じ取っていただければという思いで、これからも道化の道を進んでいきたいです」

また、この児童福祉文化賞は直近では平成24年度・25年度に劇団うりんこが連続受賞し、26年度には人形劇団むすび座が受賞しています。

全国的にも大人気

おやこ劇場・子ども劇場という、親子で定期的に生の舞台芸術の鑑賞会（例会）を開催する会員制の子育て組織が日本全国にあり、毎年秋に翌年の例会の企画（1年間のラインナップ）が決定されます。その2019年度の例会企画に選ばれたステージ数ベスト10に前述の4団体の作品が入りました。「サーカスの灯」（ラストラーダカンパニー）、「キッドナップ・ツアー」（劇団うりんこ）、「どんどこももんちゃん／カミナリカレー」（人形劇団むすび座）、「おじさんとおおきな木」（劇団なんじゃもんじゃ）。

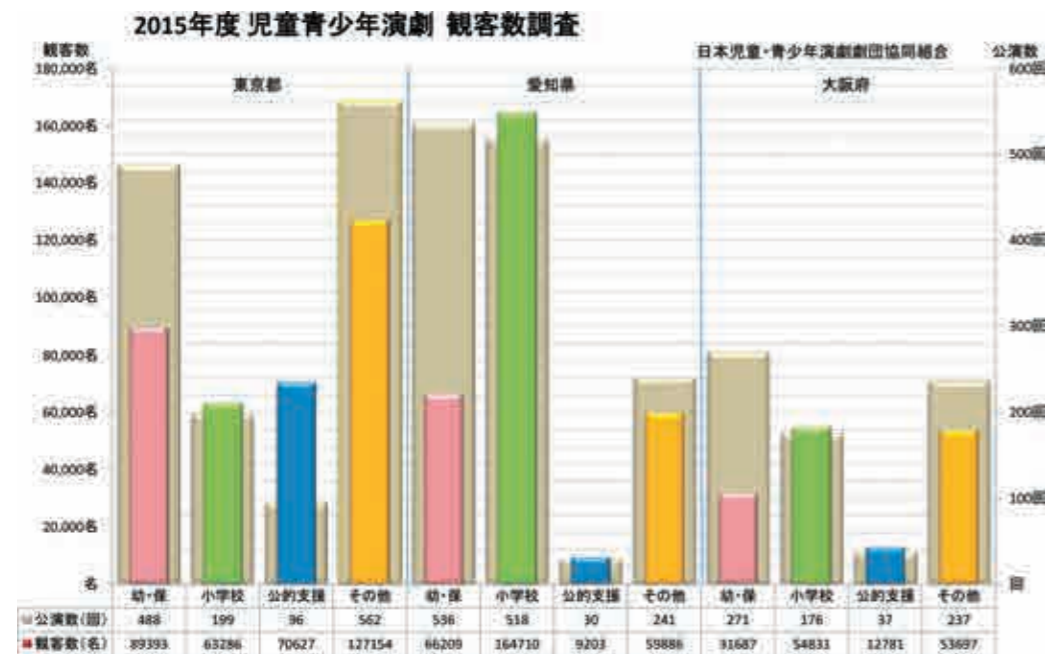
この2019年度例会企画には、音楽・演劇・パフォーマンス・舞踊・伝統などの様々なジャンルから514作品が企画提案されました。その514作品のベスト10に4団体の作品が入るとするのは、東海・名古屋の団体が全国的にも非常に信頼され、愛されている証でしょう。ちなみに東海地方以外の6作品は関東3団体、関西2団体、九州1団体の作品でした。関東に拠点を置く団体が圧倒的に多いなかでの大健闘です。

お互いに刺激しあい高めあう関係

当地域には愛知児童・青少年舞台芸術協議会（愛児協）という組織もあり、前述の児演協に加盟する4団体のほか、企画制作 楽大夢、セントラル愛知交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、人形劇団パン、松岡伶子バレエ団という幅広いジャンルの10団体が加盟しています（うち9団体が名古屋市を拠点に活動）。愛児協ではこれまで何度も加盟団体による合同公演に取り組み、また学習会や交流会なども行っています。

合同公演などの活動を通し、団体の枠を超えて出演者たちが交流し切磋琢磨する。そして合同公演が終了した後も、互いが出演している作品を観に行き、お互いに刺激しあい高めあう、とても良い関係性が生まれています。

児童青少年演劇を取り巻く状況は、子どもたちが塾通いなどで多忙になる一方であったり、学校公演の減少や少子化の影響など、決して明るくはありません。しかし幼い頃から舞台芸術に触れることは、子どもたちの情緒や感性を育み、健やかな心の発達のために欠かすことはできません。これからも名古屋を含め子ども向けの舞台に関わる全ての団体が元気良く、子どもたちに良質な舞台芸術を届け続けることを願っています。



この人と...ズーム・アップ

「ズーム・アップ」は、現在活躍中の若いアーティストを取り上げる「この人と...」の特別企画です。

地元オペラ界の次代を担う逸材

幼年期の家庭環境が、その人生に大きな影響を及ぼすことが多々ある。その典型的な例が音楽。音楽を愛する家庭に生まれた子供は、無意識のうちに多くの音楽を耳にし、家庭に楽器があれば、いつの間にか演奏できるようになっている。名古屋二期会に所属、次代のリーダーとして期待される声楽家の渡部純子もそうだ。音楽家として名を成した母（声楽家・渡部千枝）、伯父（作曲家・川口耕平）、叔母（声楽家・渡部せつ子）の血筋と影響を受け、声楽家としての道を突き進む彼女の一端を紹介する（文中敬称略）。

（聞き手：上野 茂）

声楽家 わたなべ じゅんこ
渡部 純子さん

第2回リサイタルで「トスカ」のタイトルロールを演じる純子



欧米の生活で身に付いた国際感覚

まず、右下の古い写真を見ていただきたい。子供を抱く和服の女性は母の千枝。抱かれているのが当時3歳だった純子。千枝が米国ロサンゼルスでオペラ「蝶々夫人」（タイトルロール）を演じた際のショットで、純子によれば「私が覚えている最初のオペラ」とか。

「蝶々夫人」のタイトルロールは、ソプラノ歌手のターニングポイントとなる大役。純子もまたニューヨークのマンハッタン音楽院大学院を修了した翌07年、同役で米国オペラデビューを果たしている。

純子と米国との絆は深い。有能なデザイナーだった父の転勤で、少女期をロサンゼルス、中学生時代をベルギーのインターナショナルスクールで過ごした。声楽家にとって大切な国際感覚を「当然のこととして」身に付けたのである。

NYの教会では聖歌隊ソリストに

帰国後、純子は南山国際高校に編入、同時期に歌のレッスンを始め、国立音楽大学声楽科に学んだ。そして同大卒業後、新国立劇場オペラ研修所（2期生）の選考試験にパス。定員わずか5人の難関だった。ところが入所後わずか1年で、彼女は同研修所を辞めてしまうのであ



母・千枝に抱かれる3歳の純子（ロサンゼルスで）

る。「幼いころから慣れ親しんだオペラから離れた。オペラなんて過去の産物だ、なんて思うようになりました。今思えば反抗期だったかも」と回想する。

2001年、心機一転の純子は渡米し、マンハッタン音楽

ニューヨーク・マンハッタンの中ドル共同教会聖歌隊で歌う純子（前列左から3人目）



院に入学。さまざまなオペラを学び、06年に大学院ディプロマ課を修了。その後はニューヨークのイーストビレッジにある教会で8年間にわたり聖歌隊のソリストを務めた。「教会では各国の人々と出会い、ゴスペルやアフリカの民族音楽など、さまざまな音楽を体験しました。それが米国で一番の収穫でした」

好評を博した帰国記念リサイタル

さあ、ここからは名古屋での活躍を紹介しよう。12年間の米国生活を終えた純子は、翌13年4月に帰国記念リサイタルを電気文化会館ザ・コンサートホールで開いた。オペラアリア、イタリアの古典歌曲、そして思い入れ深い黒人霊歌など多彩なプログラムを用意。彼女は米国仕込みの歌唱力と豊富な表現力を発揮し、1曲ごとに違った主人公を体現した。

圧巻は「ある晴れた日に」（蝶々夫人）だ。夫ピンカートンを待ち続ける女心。期待と不安、信頼と絶望が交錯するヒロインの心情を、わずか1曲のアリアで余すところなく描き出した。超大型新人のデビューに立ち会うことのできた幸福なステージだった。このリサイタルが評価され、純子は「第9回名古屋音楽ペンクラブ賞」を受賞した。

「蝶々夫人」で待望のタイトルロール

そして16年10月、名古屋二期会のオペラ「蝶々夫人」（芸術劇場大ホール）で、純子は待望のタイトルロールに選出された。演出は岩田達宗、共演は藤原歌劇団主力の小山陽二郎（ピンカートン）、ニューヨークでも度々共演した塚本伸彦（シャープレス）、やまもとかよ（その妻）らの豪華版だ。序盤はさすがに力んだ純子だが、徐々に本来の響きを取り戻し、演技も冴えた。

しかし公演直後、純子は「これまでの歌手生活で、最も落ち込んだ公演だった」と言う。「自分のパワーに頼り過ぎた。勉強不足を痛感しました」と反省しきり。確かに、彼女のように声量のあるソプラノが放つ高音のフォルテシモは、時に爆発的な響きを放つ。パワーをセーブ



名古屋二期会のオペラ「蝶々夫人」でタイトルロールを演じる純子（2016年10月）



オペラ「フィガロの結婚」でスザンナを演じる純子（2009年ニューヨーク）

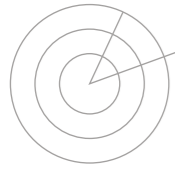
することの必要性和難しさを、改めて実感したプリマドンナである。

「トスカ」で市民芸術祭特別賞を獲得

17年10月には第2回リサイタル「言葉×音楽×芝居」（電気文化会館）を開き、ブッチーニのオペラ「トスカ（第2幕）」を田尾下哲の演出で上演し、名古屋市民芸術祭特別賞を受賞。同時期に愛知県芸術文化選奨新人賞を受賞した。18年9月には前々項で紹介した「音ペン賞」受賞者によるコンサート「音環Ⅶ」に出演し、最も得意とする米国歌曲、黒人霊歌を歌った。

「英語の曲が何より楽しい。さまざまな人種が混在した、米国での生活が懐かしい。今でも無性に英語で話したくなることがあるんです」と苦笑する純子。その音楽人生は、無限の可能性を秘めている。

ピックアップ



追悼 稲垣喜代志さん

2018年10月28日は日曜日だったので、何年かぶりに大須の骨董市をのぞいてみた。天気もいので大賑わい。外国人観光客も多い。1年前のこの日、風媒社の創業者である稲垣喜代志さんはここで骨董品を4つ買った。そして、陶芸家・加藤清之さんの個展を見に行き、そのあと喫茶店で談笑しているさなかに突然意識を失い、搬送先の病院で亡くなった。大動脈解離だった。

生前、「私もつねづね、自分が死んでも葬儀だけは願ひ下げにしたいと思っている。墓もいらぬ。人びとの心の中にだけ生きつづけられれば、そんな幸せなことはない」(『その時より、野とともにあり』より)と記していたとおり、葬儀は家族葬のみで、12月23日にはその代わりにお別れの会が開かれた。

稲垣さんが願ったとおり、私たちの心の中に稲垣さんは生きている。2018年11月4日には「文化のみち二葉館」で「出版人・稲垣喜代志の「志、」と題してトークイベントが行われた。小雨の降る日だった。それでも二葉館の大広間にはぎっしりと人が集まり、螺旋階段や吹き抜けになった二階でも登壇者の話に耳を傾ける人たちがいた。

風媒社の元社員である近藤秀二さんがどんな企画も



参加者でいっぱいの「文化のみち二葉館」大広間
(撮影：中川幸作氏)

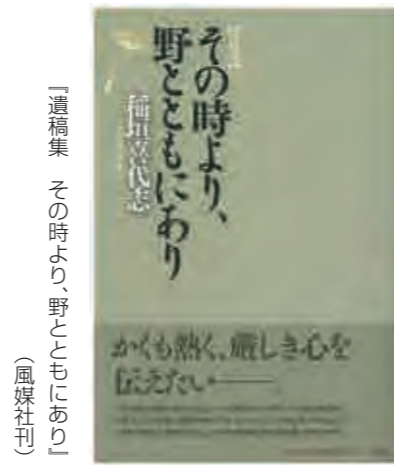
すいすい通った創業期の勢いを振り返り、同じく元社員の川角信夫さんが創業10年目の経営縮小で辞めざるをえなかった事情を語った。風媒社は1963年に稲垣さんが30歳で創業した出版社。あらゆることが東京中心で成り立つ出版業界では、地方で出版業を続けること自体がそもそも難しい。その上、業界の売上高は20年以上、前年割れを続けている。風媒社が55年間に幾たびか経営危機に陥ったことも想像に難くないが、当事者が語る現実の厳しさに、会場の人たちも静かに聴き入った。

作家の山下智恵子さんは、2010年から稲垣さんが亡くなる直前まで続いた文芸同人誌『遊民』の同人で、晩年の稲垣さんと親しく交流があった方々のお一人。稲垣さんのお茶目な一面が紹介されて会場が笑いに包まれる場面もあった。

このトークイベントの司会を務めたのは、風媒社編集長の劉永昇さん。風媒社と同じ1963年生まれで、1995年に入社。以来22年間、稲垣さんの最も近くにいた人といえる。司会者に徹して多くを語ることはなかったが、先輩方の話を聴きながら自らの稲垣喜代志像を再構築しているように感じられた。

参加者それぞれの心出版人・稲垣喜代志が甦り、あつという間に1時間半が過ぎた。会場では「反骨の編集者 稲垣喜代志の眼差し」と題した、稲垣さんが手がけた書籍や愛用の品々の展示もあった。

“人びとの心の中にだけ生きつづけられれば” いいと願った稲垣さんの思いをくんで、『遺稿集 その時より、野とともにあり』も刊行された。新聞や雑誌などに発表したエッセイ、コラム、評論などのほか、友人への弔辞、『遊民』に連載を続けた「怪人・唐九郎伝説」(未完)も収められている。20年以上も前に書かれたものもあるが、今も通用する内容ばかりで驚いた。この遺稿集によって、稲垣さんの出版魂が世代を越えて伝わっていくことを心から願っている。(Y)



『遺稿集 その時より、野とともにあり』
(風媒社刊)

いとしのサブカル



私は3年前までごくごく普通の主婦でした。毎日家事と子育てに追われ、大好きだったオシャレもできず、気付いたら一日が終わっている日々。パートで仕事をしながら、子育てサークルを立ち上げたり、音楽ボランティアで演奏活動をしたり、自分は何をして生きて行くことが一番幸せなのかを模索していました。そんなある日の朝、何気なく見ていたテレビ番組で、東京を中心に活動し全国展開していたアラフォーアイドルグループを目にした時、衝撃が走りました。『40代でもアイドルができるの?』と。正直、アイドルは若い人しかできないと思っていたからです。

でも、歌って踊っている彼女たちを見て直感でこれだ!と、私も同じようにアイドルになりたいと思い、直ぐにオーディションを受けて活動することになりました。

しかし、活動を始めて志半ば1年弱で突然解散することになり、私個人の気持ちはまだまだ不完全燃焼。どうしてもこのままでは終わらせたくないと思い、SNSを使いメンバーを募り、一からまたアイドルグループを結成。それがシャインフォーエバーです。今年で3年目を迎え、今はメンバーも14人になりました。



メンバーはそれぞれ家庭や仕事、子育てをしながらダンスや歌の練習をして、週末にはライブ活動をしています。これを続けることは想像以上に大変ですが、応援してくださるファンの方も少しずつ増えてきて、その声援が支えとなっています。皆さんの声援に応えようと、楽しんで

たくさんの方に、元気・勇気・笑顔をお届けしたい!
そして、何かを始めるきっかけにして欲しい!

アラフォーアイドル Shine 4 ever (シャインフォーエバー) リーダー

チョコ
Cy-co

東京でのアイドル経験を活かし、普通の主婦からアイドルへ。名古屋で唯一のアラフォーアイドルグループを一から一人で立ち上げる。この活動を通して乳がん女性の支援にも力を注いでいる。

もらえる企画をメンバーと一緒に考えてライブをしています。私たちの活動の大きな目的は、シャインフォーエバーのライブを観てもらい、一人でも多くの方に元気、勇気、笑顔をお届けすることです。そして、何かを始めるきっかけになってくれれば大変嬉しいです。

この2年間で200件を超えるライブ活動をしていますが、ライブハウスだけではなく野外イベントや地域のお祭り、児童施設や高齢者施設にも積極的に訪問して、喜びの声をたくさん頂いています。さらに、地元名古屋を盛り上げたいとの思いから、オリジナルご当地ソング「MISO makes me so happy!」をつくり、大須のスーパーサノヤさんの味噌売り場でCDを流して販売中です。

名古屋の魅力を発信するため名古屋だけにとどまらず、東京や金沢、長野、伊豆にも遠征しています。10月には全12曲オリジナルの初アルバムも自主制作しました。私たちの曲の特徴は全て応援メッセージソングになっていることです。

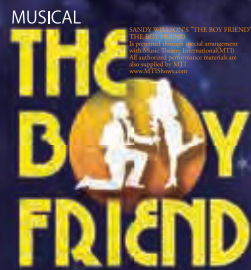
今まで、たくさんの方のメディアにも取り上げていただきましたが、まだまだ認知度が低いので、私たちが知らない方がほとんどです。同世代の女性だけでなく、もっとたくさんの方に好きなことをして輝いて欲しいので、幅広い世代の方々に私たちの想いを届けられるように今後も活動の場を広げたいと考えています。



名古屋市文化振興事業団 2019年企画公演

ミュージカル ボーイフレンド

脚本・作詞・作曲 / サンディ・ウィルソン



名古屋市文化振興事業団では1985年の「三文オペラ」を皮切りに、企画公演と銘打って毎年度、ミュージカルやオペレッタなどを上演してまいりました。2019年に上演する「ボーイフレンド」は、イギリス人の作曲家サンディ・ウィルソンが脚本・作詞・作曲の全てを手掛けたミュージカル作品です。1954年イギリスのウエストエンドで初演され、2,078回のロングランとなった名作であり、同年にブロードウェイでも上演され、同じくロングランとなりました。このブロードウェイ初演では、「サウンド・オブ・ミュージック」のマリア役や「メリー・ポピンズ」のメリー・ポピンズ役で知られるジュリー・アンドリュースが主人公ポリー・ブラウンを演じ、ブロードウェイでの主演デビューを果たしました。その好演を評価されたことが契機となり、一躍ミュージカル界の女王への道を開いた記念碑的作品です。本公演はブロードウェイ版名古屋初演として皆さまにお贈りするものです。



寺崎 秀臣

〈上演台本・訳詞・演出〉

広島県出身。主な演出作品は「屋根の上のヴァイオリン弾き」、「くたばれ! ヤンキース」、「ハロー・ドーリー!」(富山)、「ライト・イン・ザ・ピアッツァ」(名古屋)、「紳士のための愛と殺人の手引き」、「ミュージカル・舞妓はレディ」(博多座)。また、新演出版「ミス・サイゴン」、「キンキーブーツ」には、演出助手として参加。近年は、コンサートの構成・演出も手掛けている。

『古典を新しく再構築する楽しみ』

2015年の「ライト・イン・ザ・ピアッツァ」に続いて、今回2度目の演出を担当するのは、ミュージカル・コメディの古典ともいべき「ボーイフレンド」という作品です。前回はイタリアのフィレンツェが舞台でしたが、今回は南フランスのパカンスの中心都市・ニース。そこの花嫁学校に通う結婚を夢見る女の子たちと、彼女たちをものにしようとする男の子たち、学校の校長や生徒の親たちを巻き込んだ、チャールストンのリズムも楽しい、最高にハッピーなミュージカルです。この作品を演出するにあたり、この手の古いミュージカルの特徴である、シンプルな人間関係、都合のいい物語の展開を、現代の観客が楽しめるように、より複雑に、筋の通ったストーリーを再構築するところから始めました。また、ミュージカル・ナンバーもコーラスパートを加え、ダンス場面も追加して、エンターテインメントとしての完成度を高めました。また本来3幕ものである台本を2幕ものに構成し、オーケストラを舞台上に配置することで、作品と楽曲との一体感がより強くなると思っています。圧倒的にダンスの要素が強いこの作品のオーディションは、その選考が難しく、大変な作業でしたが、才能あふれるプロフェッショナルの方から、今回が初舞台となるフレッシュな新人まで、本当にたくさんのキャストに参加していただくことになり、楽しみでしかたありません。今回もダブルキャストで挑む「ボーイフレンド」に、是非ご期待ください。



西野 淳

〈音楽監督・指揮〉

ミュージカル指揮者。東宝・劇団四季・宝塚歌劇団・ホリプロ・新国立劇場等の公演において「エリザベート」「モーツァルト!」「ダンス・オブ・ヴァンパイア」「モンテクリスト伯」「オペラ座の怪人」「ウィキッド」「ロミオとジュリエット」「1789」「イントゥー・ザ・ウッズ」「スウィニー・トッド」「太平洋序曲」等の指揮を務める。第21回読売演劇大賞優秀スタッフ賞受賞。

『ボーイフレンド???』

この「ボーイフレンド」、恥ずかしながら私は全く知らない作品でした。今回の音楽監督 & 指揮が決まった時、仕事仲間に『「ボーイフレンド」ってミュージカル知ってる?』と聞きまくったのですがほとんど誰も知らず、知っている方も『ああ、そんな作品ありましたねえ』程度。とりあえず資料を集める情報収集からスタート(まあ、どの作品をやる時も同じではありますが)。あのジュリー・アンドリュースのブロードウェイ主演デビュー作品、ロンドンでは5年以上のロングランで上演回数2,000回以上、アマチュアや学生の団体では度々取り上げられる人気演目。欧米ではかなりポピュラーな作品のようですが、日本ではあまり知られていないこの作品。初めて楽譜を見て、色々な音源を聴いてみたら2ビート主体のご機嫌なナンバーばかり!! そして2幕で歌われる「Poor Little Pierrette」はとても美しい名曲!! さて、これらをどう料理してお芝居と融合させるか? 毎回ワクワクしながら稽古に励んでおります。前回のオリジナルミュージカル「山三と阿国」に引き続き地元名古屋の仕事仲間と一緒に舞台を作れるのは嬉しい限り。愛してやまない地元名古屋の皆さまに素敵な舞台をお届けできるよう大好きな名古屋メシ食べながら頑張ります!!



早川 玲美

〈振付〉

振付家として、ジャンルの枠にとらわれない斬新でコミカルな独自の世界観を持った作品を創り出す。踊り手一人ひとりの個性を最大限に活かす指導と振付は国際的に評価されている。国際コンクール Dance World Cup、イタリア国際 Livorno in Danza において、クラシックバレエ、ミュージカル振付作品を出品し金賞受賞。全国座間ミュージカルコンクール最優秀指導賞を4年連続受賞。

『ノスタルジックな想いに浸って...』

企画公演の35作目となる「ボーイフレンド」はミュージカル黄金時代の名作といわれ、あのジュリー・アンドリュースがブロードウェイで主演デビューしたという作品! そんなステキな作品を、愛する地元名古屋で振付する機会を与えていただき、本当に感謝しております。初めて楽譜を聴いた印象は、『一度聴いただけで口ずさんで踊りたくなる!!』初めて聴くのに、ちょっぴりレトロでオシャレなナンバーは、なんだか懐かしくて、聴いているだけでワクワクが止まりませんでした! そして、打合せを重ね、ボーイフレンドの世界観がひとつずつ出来上がっていく中で、『レトロだからこそ新鮮に感じる』この作品が大好きになりました。そして、オーディションで選ばれたメンバーと稽古をしていく度に『作品に命が吹き込まれていく』ことを感じています! 事業団の企画公演は、地元名古屋で既に活躍されている方だけでなく、今回が初舞台の方もオーディションで選ばれています。それは、この企画公演が単に作品を創りあげるだけでなく、ミュージカルを目指す若者たちを育成し、名古屋の文化芸術を発展させるということに大きな意味を持っているからです。あのジュリー・アンドリュースのように、この舞台から未来のミュージカルスターがうまれるかもしれない... そんなワクワクする公演なんです。個性豊かなキャラクター達が繰り広げるこの「ボーイフレンド」のラブ・コメディ!! きっとあなたも、もう一度あの時のことを想い出すはず。そう、恋をもう一度したくなるかも... さあ、劇場と一緒にちょっぴり懐かしい気持ちになってみませんか?

2019.
2/22 FRI 23 SAT 24 SUN
※開場は30分前 18:30 11:00・16:00 11:00・16:00

会場 / 名古屋市青少年文化センター・アートピアホール

入場料 <全指定席>

S席(1F) 一般4,000円 友の会・障がい者等・学生3,200円
A席(2F) 一般3,000円 友の会・障がい者等・学生2,400円

※事業団友の会会員(前売りのみ)、障がい者手帳等をお持ちの方は購入時に会員証、学生証、障がい者手帳等をご提示ください。障がい者の方は、ご本人と付添1人まで割引料金でお求めいただけます。他の割引の併用はできません。(事業団チケットガイドと事業団が管理運営する文化施設での取扱いのみ。)

※未就学児入場不可

編曲 / 小塚憲二
美術 / 岡田保
衣裳 / 木場絵理香
照明 / 古川博
音響 / 尾崎 砥
小道具 / 磯田有香
メイク / 小木曾浩美
舞台監督 / 渡辺智大〔株〕制作舎
歌唱指導 / 江端智哉、やまもとかよ

演出助手 / 瀧美優佳、竹内裕二、安藤麻実〔サ・テライトフル・カンパニー〕
副指揮 / 柴田 祥、塚田隆雄、堀江祥広
稽古ピアノ / 佐藤真由美、宇野伊世、富田三結、尾崎奈未
宣伝美術 / 渡 銀子
翻訳 / 福島孝子
管弦楽 / セントラル愛知交響楽団
制作委員 / 夏目久子、麻創けい子、小川典子
制作 / 公益財団法人名古屋市文化振興事業団 事業部



■ あらすじ

舞台は1926年、南仏のニース。郊外にある花嫁学校「ヴィラ・カプリス」では良家の子女が、恵まれた社会的地位に相応しい知識と教養を身につけるために学んでいる。今、学校では生徒たちがカーニバルの仮装舞踏会を心待ちにしている。ところが、イギリスの親元を離れ、この学校で学んでいるポリー・ブラウンは気乗りがしない。何故なら、父のパーシバルから恋人と付き合うことを禁止されているため、舞踏会にエスコートしてくれる恋人がいけないのである。しかも、周囲の友人達にはそれを隠しているため、悩みを打ち明けることもできない。そんななか、メッセンジャーボーイのトニーが舞踏会用の衣裳を届けに来る。ポリーとトニーはひと目で互いに惹かれあい、デートの約束を交わす。約束通り、屋の浜辺でともに時間を過ごすポリーとトニー。ところが、バカンスにやってきていたのか、偶然通りかかったブロックハースト卿夫妻の姿を見たトニーは突然逃げ出してしまふ。実はトニーは泥棒で、『あの人達からお金を盗んだことがばれるのが怖くて逃げだした』と聞かされたポリーは、『もしかして私にもお金目当てで近づいたの?』とショックを受けてしまい...

出 演

ポリー・ブラウン	永田 萌	ポリー・ブラウン	中根愛理
トニー	GOH IRIS WATANABE	トニー	平野 萩
パーシバル・ブラウン	井原義則	パーシバル・ブラウン	鍋木勇樹
マダム・デュポネ	やまもとかよ	マダム・デュポネ	飯野久美子
オルタンス	春日井こずえ	オルタンス	高見侑加
ボビー	山内庸平	ボビー	小林宏輝
メイジー	福井あゆみ	メイジー	伊藤千紗
ダルシー	秋野あやこ	ダルシー	佐藤明日香
ナンシー	伊藤 茜	ナンシー	各務裕梨佳
フェイ	URARA	フェイ	山口実紗
ヒューバート・ブロックハースト卿	小澤 寛	ヒューバート・ブロックハースト卿	市川太一
ヒルダ・ブロックハースト	山田紘子	ヒルダ・ブロックハースト	福田明香
ヴィラ・カプリスの生徒、海水浴客、警官など	田村早紀 鳥山紗野子 松田莉子	ヴィラ・カプリスの生徒、海水浴客、警官など	遠藤希林 加藤由理子 渡辺朱音

アルフォンス	藤木 力	ピエール	林 光	マーセル	堀 拓哉		
ヴィラ・カプリスの生徒、海水浴客、警官など	恵土莉鈴 平光礼奈	大寺果音 森 悠希乃	鎌田 哲 山田みのり	川上七海 山本農里	川瀬邦成 由谷悠伍	河野凌太 吉田梨奈子	小林美由希

📍は2月22日(金) 18:30・2月23日(土) 16:00・2月24日(日) 11:00
📍は2月23日(土) 11:00・2月24日(日) 16:00 ※無印は全日程に出演。